技術的負債との付き合い方

GMO ペパボの取り組み

GMOペパボ株式会社



自己紹介

self.introduce



=>
{
  name: “SHIBATA Hiroshi”,
  nickname: “hsbt”,
  title: “Chief engineer at GMO Pepabo, Inc.”,
  commit_bits: [“ruby”, “rake”, “rubygems”, “rdoc”, “tdiary”, “hiki”, “railsgirls”, “railsgirls-jp”, “jenkins”],
  sites: [“ruby-lang.org”, “rubyci.com”, “railsgirls.com”, “railsgirls.jp”],
}

会社組織

GMO ペパボ

- 本社: 東京都渋谷区、支社: 福岡県福岡市
- 設立日: 2003年1月10日
- 従業員数: 210名
- 企業理念: “もっとおもしろくできる”
- ミッション: “インターネットで可能性をつなげる、ひろげる”



事業部制

- サービスを担当する事業部
  - 本社事業部
  - EC事業部
  - …
- バックオフィスを担当する事業部
  - 経営管理部
  - 経営戦略部

技術的負債と向き合う

経営戦略部 - 技術部 - 技術基盤チーム

事業部制は裁量を事業部に与えることにより意思決定の速度を上げることが出来る一方で、事業部間の知識共有の伝達速度が遅くなるという問題を持つ



事業部によらない技術的課題を横串で解決し、サービス基盤を構築するチームを設立することでボトルネックを解消

技術基盤チームの具体的な活動(3年前)

サービス開発を行う上で必要な開発基盤を整備

- バージョンコントロールの整備
- デプロイ基盤の整備
- フレームワークのアップデート
- 言語のアップデート

CTO とチーフエンジニア



CTO: あんちぽくん

“業界のテクニカルリーダーとして、会社とともにエンジニアとしても大きく成長できる、DX重視の開発組織を作る”等の技術戦略を策定する



チーフエンジニア: 私

上記戦略方針を実行する

Developer Experience

Developer Experience(DX)

開発者の体験という軸を組織(会社やチーム)に導入する

DXが高い(良い)例:

- テストが整備されている
- GitHub(Enterprise) 上で開発している
- エコシステムが整備されている言語を使っている

仮説: 開発者のモチベーションはソフトウェアの品質や開発スピードに深く影響しているのではないか

技術基盤チームの具体的な活動(今年)

次世代サービス基盤の構築

- OpenStack の導入による機動的なサーバーリソース確保
- s3 互換ストレージの構築によるリソースの集約
- 監視システムの一元化による運用コスト削減
- GitHub Enterprise の導入

技術的負債と付き合う

技術的負債について考える

前提として以下のエントリを読んでください

http://blog.kentarok.org/entry/2014/03/15/224227
http://blog.kazuhooku.com/2015/03/blog-post.html

技術的負債 = 0 が DX が最高となるわけではない、経営、社会環境、技術革新など様々な要素が絡み合い、企業活動のある時点でどんな技術も負債となりうるし、DXを変化させる

制御可能であるということ

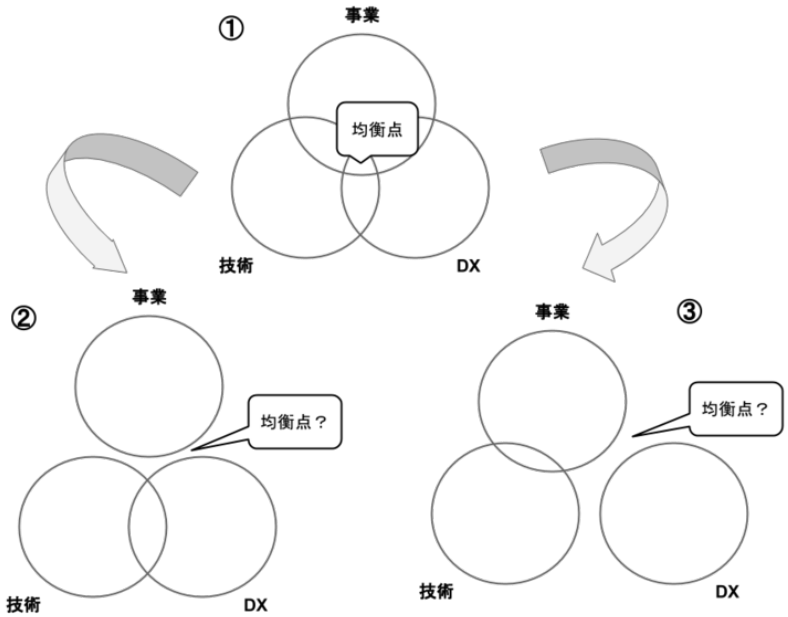
人間や組織に制御不可能であることが不安と感じる

不安を取り除く = TDD の基礎理念

仮説: 開発にDXという軸を導入することで技術的負債を制御可能となるのではないか?

ビジネス、技術、DX の均衡点

http://blog.kentarok.org/entry/2015/06/09/230957



均衡点に組織を近づける



CTO: あんちぽくん
均衡点をこの辺にするんで技術的な部分はやっておいて



チーフエンジニア: 私
あ、はい

技術: ベンダロックインから逃れる

- iOS, Android を始めとするモバイルアプリの世界はベンダーによって支配されている
- SPDY など、規格についても近年はベンダーによる支配が進んでいるので無視できない
- サービスだけではなく、ライブラリ、言語、OSまで全てを対象とし、制御可能としていく

DX: 開発をもっとおもしろくする

エンジニアが何かやろうとした時に阻害しないような基盤整備

- 機動的なリソース確保(OpenStack のような IaaS 構築)
- GitHub Enterprise の導入
- 帳票管理のような提携作業をコードで可能にする仕組み

チーム開発

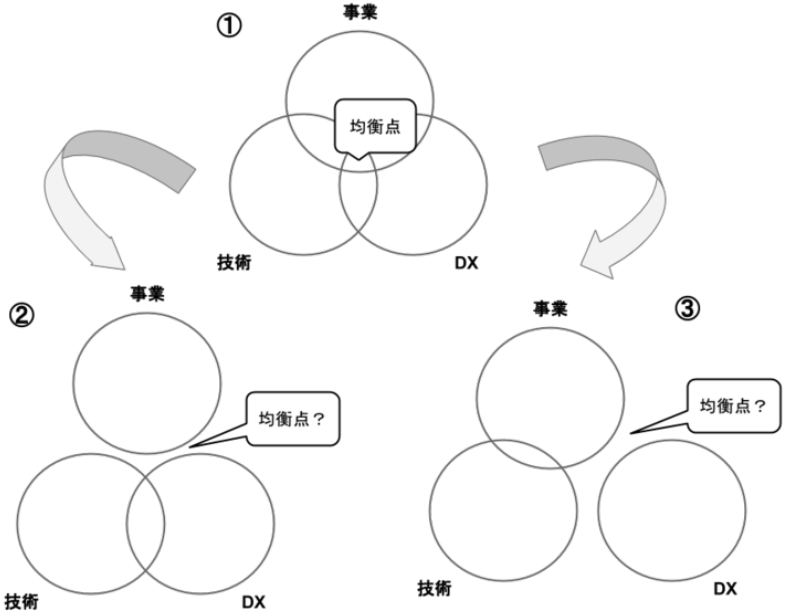
チーム開発にDXを導入する

テストを書くか、書かないか、技術的負債にするか、ではなく、「この先開発者が楽しく開発できそうか」という軸で考える

事業: 新機能のような売上げアップに繋がる開発
技術: 新しい技術の導入によるユーザー体験の追加
DX: テストを早くする、リファクタリング、自動化

マネージャが均衡点を探る

http://blog.kentarok.org/entry/2015/06/09/230957



まとめ

まとめ

- GMOペパボでは技術基盤チームが事業部を横串で技術的課題の解決を担っている
- Developer Experience という軸を導入し、均衡点をCTOが探しだし、チーフエンジニアを先頭として均衡点に近づけている
- チーム開発においても Developer Experience との均衡点を見つけることで技術的負債と付き合える